

船舶事故等調査報告書

平成21年10月1日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2008那第16号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成20年10月4日 09時41分ごろ	
発生場所	那覇港浦添ふ頭7号岸壁前面海上 (概位 北緯26°15.3′ 東経127°40.9′)	
事故等調査の経過	平成20年10月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 巡視船 りゅうきゅう、3,335トン 136767、国土交通省 B 引船 103JIN GYUNG（韓国）、149トン 8031720（IMO番号）、Kim Kyung Deuk C 台船 TAE AH B201、2,531トン なし、不詳	
乗組員等に関する情報	A 首席航海士、二級海技士 B 船長、SECOND CLASS DECK OFFICER	
死傷者等	なし	
損傷	A 船尾左舷ブルワーク凹損及び擦過傷 B なし C 船首凹損及び擦過傷	
事故等の経過	A船は、那覇港浦添ふ頭7号に係留中、B船は、船長ほか4人が乗り組み、C船をえい航して出港するため、C船を引き出し始めたが、C船が西南西風に圧流され、平成20年10月4日09時41分ごろ、A船とC船とが衝突した。	
気象・海象	気象：風向 西南西、風速 約5.2m/s (事故現場の南約5kmに位置する沖縄気象台における事故当日09時40分の観測値)	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり B船は、離岸する際、操船を適切に行わなかった可能性が考えられる。
原因	本事故は、那覇港において、A船が岸壁係留中、B船がC船をえい航して那覇港の岸壁を離岸作業中、B船が操船を適切に行わなかったため、A船とC船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	